

# 調査票

※ 本調査は、「男女共同参画」「多文化共生」の2分野を合わせた「磐田市 男女共同参画・多文化共生に関する市民意識調査」として、調査を実施している。



# 磐田市 男女共同参画・多文化共生に関する市民意識調査票

\*\*\* ご協力のお願い \*\*\*

日ごろから市政の推進にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

このたび、第2次磐田市男女共同参画プランの策定、並びに第3次多文化共生社会推進プランの策定の参考資料として、市民の皆様の男女平等や男女共同参画社会の実現及び多文化共生に関するお考えやご意見について調査をさせていただきたく、意識調査票を郵送させていただきました。

つきましては、お忙しいところお手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

この調査は、市内にお住まいの満20歳以上の男女から無作為に抽出した3,000人の方を対象にお願いしております。調査の実施・統計業務は株式会社トムスに委託しております。調査で得られた結果は、すべて統計的に処理し、調査の目的以外の使用はいたしませんので、皆様にご迷惑がかかることは一切ございません。

平成27年10月 磐田市長 渡部 修

\*\*\* 記入にあたってのお願い \*\*\*

- 1 この調査は、宛名のご本人が、ご自身のお考えをお答えください。
- 2 宛名のご本人がご病気などで、自分で答えるのが難しい場合は、ご家族またはお世話をなさっている方が記入のお手伝いをさせていただいても構いません。
- 3 回答は、あてはまる番号に○をつけてください。
- 4 「その他」を選択した場合は、( ) 内に具体的な内容も記入してください。
- 5 記入は黒の鉛筆またはボールペンでお願いします。
- 6 ご記入後は11月23日(月)までに同封の封筒でご投函ください。(切手不要)

磐田市 市民部 市民活動推進課  
TEL 0538-37-4710

〈この調査についてのお問い合わせ先〉

調査実施機関

静新 SBS グループ

株式会社トムス

TEL 0120-169-453 (月～金 9:00～17:00)



はじめに、あなたご自身のことについて、お伺いします

F 1 あなたがお住まいの地域は、どこの中学校区ですか。(1つに○)

- |            |           |                   |          |
|------------|-----------|-------------------|----------|
| 1. 磐田第一中学校 | 2. 城山中学校  | 3. 向陽中学校          | 4. 神明中学校 |
| 5. 南部中学校   | 6. 福田中学校  | 7. 竜洋中学校          | 8. 豊田中学校 |
| 9. 豊田南中学校  | 10. 豊岡中学校 | 11. わからない(町丁目名: ) |          |

F 2 あなたの性別はどちらですか。(1つに○)

- |       |       |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

F 3 あなたの年齢は次のどれにあてはまりますか。(1つに○)

- |            |            |            |
|------------|------------|------------|
| 1. 20歳～29歳 | 2. 30歳～39歳 | 3. 40歳～49歳 |
| 4. 50歳～59歳 | 5. 60歳～69歳 | 6. 70歳以上   |

F 4 あなたのお仕事はどれにあたりますか。(1つに○)

- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| 1. 会社員・公務員・その他勤め人 | 2. パート・アルバイト・派遣社員 |
| 3. 自営業(農林漁業、商工業等) | 4. 専業主婦・主夫        |
| 5. 学生             | 6. 無職             |
| 7. その他( )         |                   |

F 5 あなたが、現在同居しているご家族の構成は次のうちどれですか。(1つに○)

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1. 単身世帯(ひとり暮らし) | 2. 1世代世帯(夫婦だけ)  |
| 3. 2世代世帯(親と子)   | 4. 3世代世帯(親と子と孫) |
| 5. その他( )       |                 |

F 6 あなたは現在結婚されていますか。(1つに○)

- |                    |          |
|--------------------|----------|
| 1. 結婚している(事実婚を含む)  |          |
| 2. 結婚していない         | ⇒P.2 F8へ |
| 3. 結婚していたが、離婚・死別した | ⇒P.2 F8へ |

〈F 6 で「1. 結婚している(事実婚を含む)」とお答えの方に伺います。〉

F 7 現在、共働きをしていますか。(1つに○)

- |                                 |
|---------------------------------|
| 1. 共働き(共に会社員・公務員・その他勤め人、または自営業) |
| 2. 共働き(いずれかがパート・アルバイト・派遣社員)     |
| 3. 共働き(共にパート・アルバイト・派遣社員)        |
| 4. 共働きでない                       |
| 5. どちらも働いていない                   |



## DVやセクシャル・ハラスメントについてお伺いします

問5 過去1年間に、「夫や妻・恋人など親しい間柄にある男女間の暴力」(ドメスティック・バイオレンス)について、経験したり見聞きしたことがありますか。(あてはまるもの全てに○)

※暴力には、身体的暴力、精神的暴力、性的暴力や経済的暴力などがあります。

1. 暴力を受けたことがある
2. 身近に暴力を受けた人がいる
3. 暴力を受けた人から相談されたことがある
4. 身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある
5. テレビや新聞などで、問題になっていることを知っている
6. 経験したり見聞きしたことはない
7. その他( )

問6 「夫や妻・恋人など親しい間柄にある男女間の暴力」(ドメスティック・バイオレンス)をなくすためには、どうしたらよいとお考えになりますか。あなたが、重要であるとお考えのものをお選びください。(3つまでに○)

1. 法律・制度の制定や見直しを行う
2. 犯罪の取り締まりを強化する
3. 捜査や裁判での担当者を増やすなど、被害を受けた方が被害を訴えやすい環境をつくる
4. 被害者を支援し、暴力に反対する市民運動を盛り上げる
5. 被害者のための相談機関や保護施設を整備する
6. 家庭における男女平等についての教育を充実させる
7. 学校における男女平等についての教育を充実させる
8. 暴力防止についての教育を充実させる
9. 感情コントロールについての教育を充実させる
10. メディアが自主的取組を強化し、暴力を無批判に取り扱わないようにする
11. 過激な暴力表現を扱ったビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸出を制限する
12. その他( )
13. わからない

問7 過去1年間に、セクシュアル・ハラスメント(セクハラ・性的嫌がらせ)について経験したり、見聞きしたことがありますか。(あてはまるもの全てに○)

1. セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある
2. 身近にセクシュアル・ハラスメントを受けた人がいる
3. セクシュアル・ハラスメントを受けた人から相談されたことがある
4. 身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある
5. テレビや新聞などで問題になっていることを知っている
6. 経験したり見聞きしたことはない
7. その他( )

**男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境についてお伺いします**

問8 現在、配偶者（事実婚を含む）のいる方に伺います。 ※配偶者のいない方は問9へお進みください。  
 あなたのご家庭では、次にあげる家庭での役割を、主にどなたが担っていますか。  
 （それぞれ1つに○）

※横方向にお答え下さい

	主に妻	主に妻だが、夫も分担	夫と妻が同程度	主に夫だが、妻も分担	主に夫	その他	同居の子どもや親がいない
①家計を支える（生活費を稼ぐ）	1	2	3	4	5	6	
②掃除、洗濯、食事のしたくなどの家事をする	1	2	3	4	5	6	
③日々の家計の管理をする	1	2	3	4	5	6	
④育児・子どものしつけをする	1	2	3	4	5	6	7
⑤親の世話（介護）をする	1	2	3	4	5	6	7
⑥自治会・町内会などの地域活動を行う	1	2	3	4	5	6	
⑦子どもの教育方針や進路目標を決める	1	2	3	4	5	6	7
⑧高額の商品や土地・家屋の購入を決める	1	2	3	4	5	6	

問9 育児や介護を行うために、育児休業や介護休業を取得できる制度があります。  
 この制度を活用して男性が育児休業や介護休業を取ることについて、あなたはどのように考えますか。  
 （それぞれ1つに○）

※横方向にお答え下さい

	積極的に取ったほうがよい	どちらかといえば取ったほうがよい	どちらかといえば取らないほうがよい	取らないほうがよい	わからない
①育児休業	1	2	3	4	5
②介護休業	1	2	3	4	5

**意思決定の過程への女性の参画についてお伺いします**

問10 あなたは、次のような分野で女性の意見がどの程度反映されていると思いますか。  
 （それぞれ1つに○）

※横方向にお答え下さい

	十分反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	ほとんど反映されていない	わからない
①市議会などの政治	1	2	3	4	5
②市などの行政	1	2	3	4	5
③企業などの職場	1	2	3	4	5
④PTAや自治会などの地域	1	2	3	4	5

問11 あなたは、女性が管理的部門や指導的地位へ就くことについてどのように考えますか。(1つに○)

1. 男性を上回るほど増えるほうがよい
2. 男女半々になるくらいまで増えるほうがよい
3. 男女半々まではいかなくても、今より増えるほうがよい
4. 今のままでよい
5. その他( )
6. わからない

問12 現状では、意思決定を行う管理的部門や指導的地位への女性登用が未だ少ない状況にあります。あなたは、その理由としてどのようなものがあると考えますか。(3つまでに○)

1. 女性自身が管理的部門等につくことに消極的だから
2. 女性は継続して勤務することが困難であるから
3. 社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから
4. 家族の理解や協力が得られにくいから
5. 主として補助的業務が与えられ、女性の能力を高める機会が少ないから
6. 登用する側に男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから
7. その他( )
8. わからない

### 男女が共に能力を発揮できる就業環境についてお伺いします

問13 あなたは今までに、仕事を辞めたり、中断したり、転職したことがありますか。(1つに○)

※今までに働いたことがない方は「2. ない」を選択してください。

- |       |       |       |
|-------|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない | ⇒問15へ |
|-------|-------|-------|

〈問13で「1. ある」とお答えの方に伺います。〉

問14 仕事を辞めたり、中断したり、転職した理由を3つまで選んでください。(3つまでに○)

- |                     |                   |
|---------------------|-------------------|
| 1. 自分の健康上の問題        | 2. 結婚のため          |
| 3. 出産・育児のため         | 4. 病気等の家族の世話のため   |
| 5. 配偶者の転勤のため        | 6. 配偶者の収入で生活できるため |
| 7. 仕事にやりがいを感じなかったため | 8. 労働条件がよくなかったため  |
| 9. 勤務先の都合で          | 10. 家族の反対         |
| 11. 定年退職のため         | 12. その他( )        |



問15 現在、仕事をしている人にお聞きします。  
あなたの職場では男女の不平等がありますか。(1つに○)

- |       |               |       |
|-------|---------------|-------|
| 1. ある | 2. ない         | ⇒問17へ |
|       | 3. 現在仕事はしていない | ⇒問17へ |

〈問15で「1. ある」とお答えの方に伺います。〉

問16 男女の不平等を感じることはどのようなところですか。(あてはまるもの全てに○)

- |                            |                              |
|----------------------------|------------------------------|
| 1. 募集や採用の面で格差がある           | 2. 賃金・昇給の面で格差がある             |
| 3. 教育・研修などの機会に差がある         | 4. 女性には結婚退職や出産退職の慣習がある       |
| 5. 慣習として女性の定年は男性の定年より早い    | 6. お茶くみやコピーなど雑用的、補助的仕事は女性に多い |
| 7. セクシャルハラスメント(性的いやがらせ)がある | 8. 長時間労働や出張は男性に多い            |
| 9. 仕事に対する女性の意識が低い          | 10. その他( )                   |

問17 一般的に女性が職業を持つことについて、どう考えますか。(1つに○)

- |                                       |
|---------------------------------------|
| 1. 女性は職業を持たないほうがよい                    |
| 2. 結婚するまでは職業を持つほうがよい                  |
| 3. 子どもができるまでは職業を持つほうがよい               |
| 4. 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい |
| 5. ずっと職業を続けるほうがよい                     |
| 6. その他( )                             |
| 7. わからない                              |

問18 女性が職業を持つことについて、あなたの現実に当てはまるもの(当てはまると予想されるもの)はどれですか。(1つに○)

※男性の方は、ご家庭での状況で現実<sub>に</sub>当てはまるもの(当てはまると予想されるもの)をお答えください。

- |                                       |           |
|---------------------------------------|-----------|
| 1. 女性は職業を持たないほうがよい                    | ⇒P.7 問20へ |
| 2. 結婚するまでは職業を持つほうがよい                  |           |
| 3. 子どもができるまでは職業を持つほうがよい               |           |
| 4. 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい |           |
| 5. ずっと職業を続けるほうがよい                     |           |
| 6. その他( )                             | ⇒P.7 問20へ |
| 7. わからない                              | ⇒P.7 問20へ |

〈問18で「2」「3」「4」又は「5」と答えた方に伺います。〉

問19 継続して女性が働く上での障害は何だと思えますか。(あてはまるもの全てに○)

- |                            |                          |
|----------------------------|--------------------------|
| 1. 結婚・出産退職等の慣行             | 2. 賃金の男女格差               |
| 3. 昇進、昇格における男女の格差          | 4. 仕事内容における男女の格差         |
| 5. 長時間労働や残業                | 6. 雇用形態にパートタイムや臨時雇いが多いこと |
| 7. 育児休業・介護休業が取得しにくい環境にあること | 8. 育児休業・介護休業の制度が整っていないこと |
| 9. 育児施設・介護施設の不足            | 10. 職場における人間関係           |
| 11. 家族に反対されたり、協力が得られないこと   | 12. 女性自身の知識や技術の不足        |
| 13. 女性自身の就業意欲が低いこと         | 14. その他( )               |
| 15. 特にない                   | 16. わからない                |

## 地域社会の一員としての活動についてお伺いします

問20 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い）の3つの中から、あなたが優先したいものをお選びください。（あてはまるもの全てに○）

1. 「仕事」を優先したい
2. 「家庭生活」を優先したい
3. 「地域・個人の生活」を優先したい
4. わからない

問21 それでは、あなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか。（あてはまるもの全てに○）

1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭生活」を優先している
3. 「地域・個人の生活」を優先している
4. わからない

問22 今後、男女ともに家庭生活や地域生活、仕事の場に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるもの全てに○）

1. 男性の家事・育児参加などに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2. 男性の家事・育児参加などに対する女性の抵抗感をなくすこと
3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること
4. 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
5. 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、理解を高めること
6. 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
7. 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
8. 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、相談しやすい窓口を設けること
9. 女性でも能力がある人には責任ある仕事を任せること
10. 女性自身が責任ある立場につくことへの抵抗感をなくすこと
11. 育児休暇・介護休暇を男女ともに取得する環境づくりを進めること
12. 子どものころから男女ともに家事・育児のスキルを身に付けること
13. その他( )

## 実践的な取組の推進についてお伺いします

問23 「磐田市男女共同参画センターともしあ」を利用したことがありますか。(1つに○)

1. 利用したことがある
2. 知っているが、利用したことはない
3. 知らない

【用語解説】

### 磐田市男女共同参画センター「ともしあ」

磐田市の男女共同参画推進の拠点として、講座や講演会の開催、啓発資料の発行等を行っている。

※時間：月～土曜日 午前8時30分～午後5時

場所：豊田支所1階

問24 「磐田市男女共同参画センターともしあ」について、あなたは、この施設にどのような役割を期待していますか。(あてはまるもの全てに○)

1. 男女共同参画に関する学習会の開催(セミナー、講演会、シンポジウム等)
2. 社会で働く上で役立つ講座の開催(起業、再就職、資格取得等)
3. 女性を対象とした相談(電話、面接)
4. 男性を対象とした相談(電話、面接)
5. 広報誌や情報誌による男女共同参画の推進に関する情報提供
6. インターネット(ホームページ)による男女共同参画の推進に関する情報提供
7. 男女共同参画に関する図書や資料の提供
8. 「ともしあ」で開催するセミナー受講者や相談者等が交流できる場や機会の提供
9. 様々な団体やNPOが交流できる場や機会の提供
10. 男女共同参画に関する地域の実態調査等の研究
11. 誰もが利用できるホールや会議室の提供
12. その他( )
13. 特になし

問25 あなたは次のことがらを知っていますか。(それぞれ1つに○)

	※横方向にお答え下さい		
	知っている	聞いたことがある	知らない
①男女共同参画社会	1	2	3
②ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)	1	2	3
③ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	1	2	3
④ワーク・ライフ・バランス	1	2	3
⑤磐田市男女共同参画条例	1	2	3
⑥磐田市女性相談室	1	2	3

【用語解説】

### 男女共同参画社会

男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、また、その機会が確保されることにより、男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受し、共に責任を担う社会。

### ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）

生まれつきの生物学的性別（セックス／sex）ではなく、社会通念や慣習の中にある、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」のような男性、女性の別のこと。社会的・文化的性別は、それ自体に良い、悪いの価値を含むものではなく、国際的にも使われている。

### ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

政治、職場、地域などで生じている男女間の格差（例：管理職の大半が男性）を解消するために行う積極的な取組のこと。

### ワーク・ライフ・バランス

「仕事と生活の調和」と訳され、働く人が、仕事と、子育てや介護、自己啓発、地域活動などといった仕事以外の生活とを自分が望むバランスで実現できることを意味している。

### 磐田市男女共同参画条例

男女が共に生き生きと暮らせる社会の実現を目指し、平成 18 年 4 月 1 日に施行された条例。

### 磐田市女性相談室

女性の悩みや問題に女性の相談員が電話や面接により対応する女性相談室。

※時間：月～金曜日 午前9時00分～午後5時

場所：i (あい) プラザ（磐田市総合健康福祉会館）3階 相談室

問26 男女共同参画社会の実現に向けて、重要だと思われる取組は何でしょうか。（3つまでに○）

1. 男女共同参画の視点に立った社会における制度・慣行の見直しや意識改革
2. 男女の人権尊重や男女平等の推進に関する教育・学習の充実
3. 政策や方針決定過程への女性の参画の拡大
4. 子育て・介護など男女が共に家族の一員として役割を果たすための環境づくり
5. ワーク・ライフ・バランスの推進など、男女が共に能力を発揮できる就業環境づくり
6. 国際社会や地域社会の一員としての活動への参画支援
7. ドメスティック・バイオレンスやセクシュアル・ハラスメント等の根絶
8. 生涯を通じた男女の健康支援
9. 経済的基盤が脆弱な家庭の支援
10. 若者、高齢者、障害のある人、外国人等の自立支援
11. 男女共同参画センター等公共施設の機能強化
12. その他( )
13. 特にない
14. わからない

問27 男女共同参画を推進していくために、県や市町など行政に望むことがありましたら、ご自由にお書きください。


## 外国人市民と共生する地域づくりにかかわることについてお伺いします

問28 あなたはこれまでに外国人と以下のような付き合いがありましたか。

(あてはまるもの全てに○) ※過去の経験を含む

1. 一緒に働いている(働いていた)
2. 学校で一緒に勉強している(していた)
3. 友人としてつき合っている(つき合っていた)
4. 自分または親せきが外国人と結婚して日本に住んでいる(住んでいた)
5. 外国人の支援団体やNPO、国際交流グループ等で一緒に活動している(していた)
6. 子どもの通う学校でのPTA活動などを通じて、一緒に活動している(していた)
7. 宗教活動(教会など)を通じて、一緒に活動している(していた)
8. その他のグループや地域活動に一緒に参加している(していた)
9. 外国人とあいさつ程度の付き合いはある(あった)
10. 外国人の知り合いはいないし、付き合いを持ったこともない ⇒問30へ

〈問28で「1」～「9」に答えた方に伺います。〉

→問29 あなたは過去1年間に外国人と以下のような付き合いがありますか。

(あてはまるもの全てに○)

1. 一緒に働いている(働いていた)
2. 学校で一緒に勉強している(していた)
3. 友人としてつき合っている(つき合っていた)
4. 自分または親せきが外国人と結婚して日本に住んでいる(住んでいた)
5. 外国人の支援団体やNPO、国際交流グループ等で一緒に活動している(していた)
6. 子どもの通う学校でのPTA活動などを通じて、一緒に活動している(していた)
7. 宗教活動(教会など)を通じて、一緒に活動している(していた)
8. その他のグループや地域活動に一緒に参加している(していた)
9. 外国人とあいさつ程度の付き合いはある(あった)

問30 あなたが生活している地域で、外国人と顔を合わせることがありますか。(1つに○)

1. よくある
2. ときどきある
3. あまりない
4. 全くない

問31 地域で暮らす外国人について親しみを感じますか。(1つに○)

1. 親しみを感じる
2. どちらかといえば感じる
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば感じない
5. 親しみを感じない

問32 地域で暮らす外国人が増えるとうろなると思いますか。それぞれの項目についてあなたの気持ちに最も近いものを選んでください。(それぞれ1つに○)

※横方向にお答え下さい  
➡

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう 思わない
1. 異文化に触れる機会が増える	1	2	3	4
2. 地域や経済の活性化につながる	1	2	3	4
3. 外国語を学ぶ機会が増える	1	2	3	4
4. 日本の文化がそこなわれる	1	2	3	4
5. 日本人の仕事が奪われる	1	2	3	4
6. 治安が悪化する	1	2	3	4

問33 地域で暮らす外国人が日本人との相互理解を深めるために必要なことは何だと思ひますか。(それぞれ1つに○)

※横方向にお答え下さい  
➡

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう 思わない
1. 日本語を身につける	1	2	3	4
2. 日本の文化を知る	1	2	3	4
3. 地域のルールや習慣を学ぶ	1	2	3	4
4. 地域活動へ積極的に参加する	1	2	3	4
5. 自治会に加入する	1	2	3	4
6. 自国の文化を紹介する	1	2	3	4

問34 地域で暮らす外国人との相互理解を深めるために日本人がすべきことは何だと思ひますか。(それぞれ1つに○)

※横方向にお答え下さい  
➡

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう 思わない
1. 日常的にあいさつをする	1	2	3	4
2. 差別意識を持たない	1	2	3	4
3. 文化や生活習慣の違いを知る	1	2	3	4
4. 地域活動への参加を呼びかける	1	2	3	4
5. 地域のルールを伝える	1	2	3	4
6. 日本語を教える	1	2	3	4

問35 外国人と共生する地域づくりについてご意見等ありましたらご自由にお書きください。

-----
-----
-----
-----